

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 4 月 26 日

事業所名 ちゃーげんき 塩屋

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	○			十分なスペースを確保出来ているがスペース広い為、基準より職員を増やし安全面に配慮する。
	2	職員の配置数は適切である	○		毎週不曜日は言語の先生が来所します	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○			2階建ての建物で、活動によって場所を変えるので、児童達も今何をやる時間なのか把握しやすいと思います。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○			一日の利用終わりに清掃を行っている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	○			朝のミーティングや職員会議で打ち合わせを行い、集団活動の確認を送迎時の会話の中で話を聞いたりする事があるが、今後はアンケート等を行い保護者様の御意見を活動に取り入れる。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている		○		
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	○			事業所のHPIに公開する。保護者には結果報告を行う。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		現在、第三者による評価は行っていません。コンサルタントに運営や支援についてアドバイスをもらい業務改善に繋がっています
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○			オンライン研修等には参加出来ている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○			見学・体験時に面談を行い、ニーズを把握し、個別計画を作成に取り入れてます。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している		○		個別記録に行動・情緒・表情を記録し、パターンの把握に努める。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○			保護者の思いを尊重し、保護者に寄り添いながら関係機関と協力して支援して行く。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○			個別支援計画に沿った支援を行ってま
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○			ミーティングを行い目標をチームで設定しています。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○			週ごとの活動が被らないように調整を行っています。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	○			子ども達の状況に応じたプログラムを工夫して行う。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○			朝のミーティングを行いその日の職員 の役割り分担を行う。
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		○		その日の出来事の振り返りを行っ て います。 課題として書面に残すよ うにする。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○			個別記録に記し、個別支援計画の 見直しや支援改善に繋げている。
	20 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	○			定期的に電話やリモートでモニタリ ングを行っているが保護者・学校の先生 の意見も細かく取り入れた。
関係機関や保護者との連携 関係機関や保護者との連携	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	○			事前に情報収集を行い会議に 参加している。
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている		○		コロナ渦の影響で、担任の先生を 交えた会議などの開催が出来な かった。
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている		○		対象児童がいません。
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている		○		対象児童がいません。
	25 移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		送迎時に情報を聞く事を意識 は しているが、完全ではない。
	26 移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている		○		上記同様
	27 他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		○		コロナ渦でリモート開催の研修には 参加しているが、講演会などには参加 出来ていない。
	28 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		○		コロナ渦だったので出来ていない。
	29 (自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している		○		上記同様
	30 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	○			送迎時に一日の事業所の様子を 伝え、また自宅での様子を聞くよ うに意識している。
	31 保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		○		現在ペアレント・トレーニングは 行っていません。 今後、保護者 会を 開催し、検討予定
32 運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	○			契約時に説明を行っています。 また、必要に応じて説明を行 う。	
33 児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	○			個別支援計画書を更新時に支援 内容の説明を行い保護者から同 意を得て作成しています。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標	
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	○			電話やメールで相談を頂いた時は電話やメールで終わらせるのではなく時間調整を行い事業所で話を伺い一緒に解決策を探します。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		○		今年度7月に親子クッキングを、企画し、そのプログラムの中で、保護者会を開催する。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	○			迅速かつ適切な対応をするように努めます。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	○			月に一度、活動概要や行事予定をしおりとして配っています。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	○			取り扱いを説明し、全職員に個別情報保護の誓約書にサインしています。また必要に応じて説明を行っています。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている		○		絵カード、写真カードでのアプローチを行う。
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		○		今後、ダンスやエイサーなど活動に取り入れ、地域のイベントなどに参加したい。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している		○		各種マニュアルを作成し、誰でも確認出来るようにファイルを作成しています。置き場所も保護者
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	○		防災期間中には活動に取り入れ、DVDや絵本を使って確認を行う	年に2回実地している。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	○			お薬依頼書を作成し、初回に処方箋と投薬の仕方を確認しています。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		○		医師の指示事項を提出して頂く。(現時点では該当児童はいませんでした。)
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	○			ヒヤリハット事例は発生後直ちに上司に報告し、報告書を作成、全職員で共有、会議を行い振り返りを行う。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	○	○	事業所内で虐待勉強会を行っている。	コロナの影響で、外部の講師を呼んだ研修は行えなかった。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している		○		該当するケースはありません。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。